

第6学年 外国語

「Let's go to Italy.」【New Horizon6Unit3】(9時間扱い)

授業者 安彦 有里恵

1 教材の特徴

学習内容の系統性

本単元で学習する表現“You can～. It's ～.”は、5年生のNew Horizon Elementary5 unit4で学習した表現です。5年生でcanを用いて身近な人の職業やできることを紹介する学習を行います。6年生では、おすすめする国や地域を紹介するために、世界の有名な建物や食べ物についての表現を学習します。また、会話の相手として、3年生や4年生は友達や家族などの身近な人から、5年生や6年生からは他者というように身近な人からより広い世界の相手に広がります。簡単な語句・表現を使うだけでなく、会話する場所や相手意識をもつことがコミュニケーションを行う上で重要になります(図1)。そのため、この単元の学習では、自分の考えや思いが相手により伝わることと、相手の話を聞こうとする姿勢のどちらも大切になると考えます。

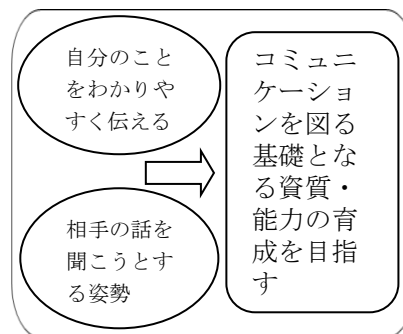


図1 6年生で身に付けさせたい資質・能力

見方・考え方

学習指導要領解説
外国語活動・外国語編
p11

外国語科の学習における見方・考え方は「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。」となっています。「相手意識をもつ会話」は、相手に配慮しながら会話をするということなので「他者との関わりに着目して捉える」という点につながります。

本単元の目的

本単元では、「自分のことを伝え、相手のことをよく知るために行ってみたいおすすめの国や地域とその理由について簡単な語句・表現を用いてお互いの考えや気持ちなどを伝え合う。」を目的とします。

自らの学習を調整することによりメタ認知を促す

森 和久、相川 保
(2020) 小学校外国語科における「自らの学習の調整」の側面の評価に関する
考察 177-188

「自らの学習を調整する」ために、ルーブリックによる振り返りが効果的であることがわかっています。森、相川 (2020) では、メタ認知的方略の使用を促進するための適切なトレーニングが必要となると考えます。そのためにも、何をどんな基準で振り返ったらよいか振り返りの仕方を具体的に指導するということが必要になります。「自らの学習を調整」するような指導をしたうえで、どのような姿が見られたら評価できるのかを判断することが重要となると報告されています。



図2 メタ認知を促す学習のつながり

このことから、ルーブリックの基準をもとに学習を振り返りながら、自らの学習を調整していくことを繰り返していくことでメタ認知が促されると考えます(図2)。

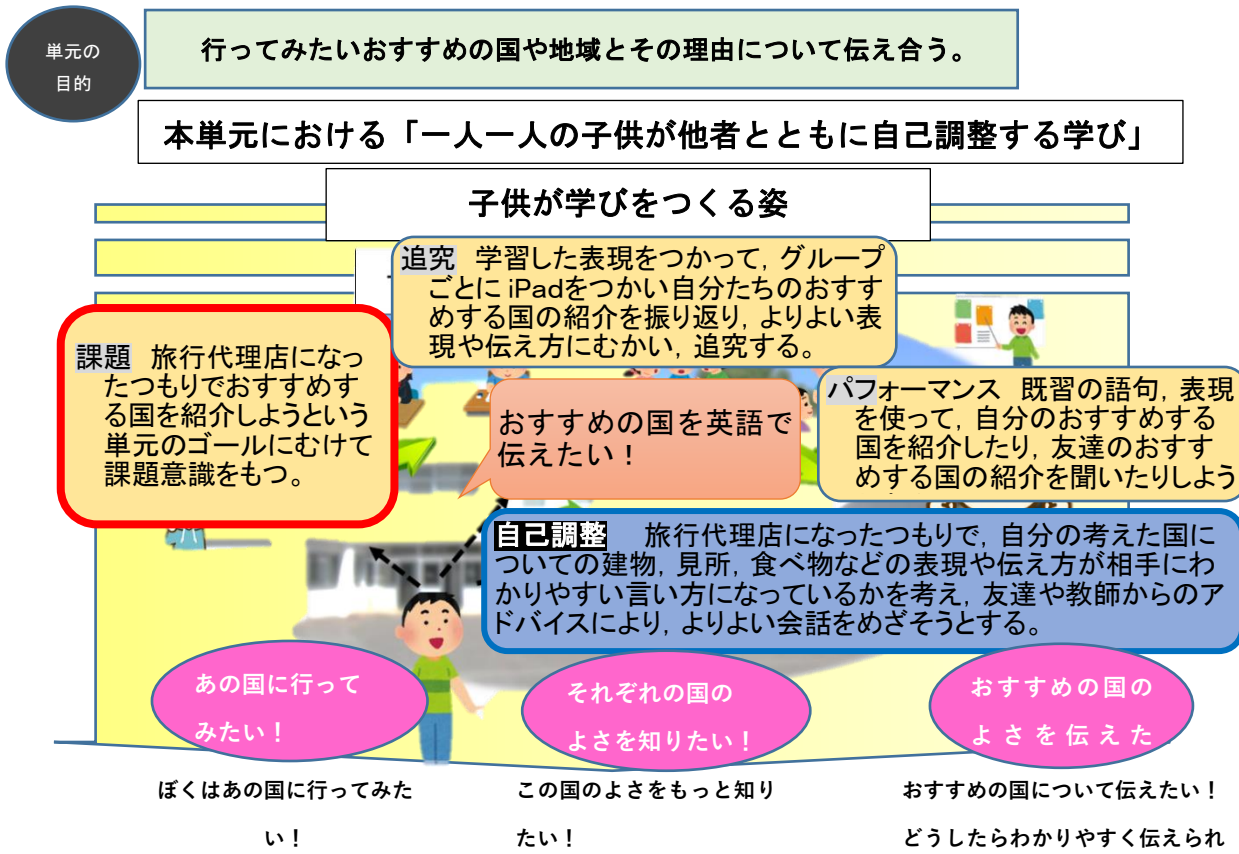
明確な相手意識による会話の場面設定

本単元では、「旅行代理店になったつもりでおすすめを紹介しよう」という場面を設定し、今まで習った語句・表現を使って、おすすめを紹介する活動を行います。さらに、紹介する場面を意識することができるよう、おすすめを紹介する人と聞く人の役割分担を行い、やりとりする学習活動を構想します。単元の学習を通して、相手意識をもつことができるよう、相手に自分のおすすめの国のことを知ってもらえるように、おすすめの国の観光地、見所、おすすめのお食べ物などについて伝えたいことを考えます。さらに、グループごとに学習

する場面で、これまでに学習してきた語句や表現を用いて、おすすめする国について相手により知ってもらえるように工夫したり、相手の国のことをもっと知るために質問を考えたりする場面を設けます。これにより、相手に自分のおすすめする国のことを知ってもらえるように、主体的に表現や伝え方をよりよくしていくと対話しながら学ぶことができると考えます。

2 目指す子供の姿

	課題設定	課題追究	パフォーマンス
外国語科が 目指す 学びをつくる 子供のゴール の姿	具体的な場面、状況において、コミュニケーションを行う目的をもち、言語活動を通して目指す姿の具体を整理し、主体的に学習を進めようとする。	目指す姿の具体に向かうような学習計画を立て、言語活動等の目的や内容に合うペア、グループ、個人、全体などの活動形態を選択して行おうとする。 →iPadで撮影した動画や、ポスター、シナリオ等の成果物を見合う活	コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、事実や自分の考え等を整理し、既習の語句、表現等から整理した内容に合うものを選択して使い、他者に配慮しながら伝え合う。
外国語科が 目指す R3. 8月時点の 6年生の 学びをつくる姿	具体的な場面、状況において自分の思いや考えをもち、既習の語句、表現の中から目的にあった表現をしようとする。	個人、ペア、グループ等の学習形態を選択し、対話的に自己の表現の仕方をモニタリング（iPadで撮影した動画や成果物を見合う等の活動を通して）し、より他者に配慮した表現の仕方や伝え方を追究する。	既習の語句・表現を活用してペアやグループ、いろいろな友達と全体交流（iPadで撮影した動画や成果物を見合う等による活動を通して）会話をしようとする。 全体の場で自分の思いや考えを発表することに慣れ、ポスターや成果物を見せながら発表できるようにする。



4 単元計画

学習活動 (○) [自己調整]	
課題 1	<p>○ 旅行代理店になったつもりでおすすめする国を紹介しよう。というゴールイメージをもって学習計画をたてる。</p> <p>課題 主体的に学習を進めていくことができるよう、提示する場面から考えられる会話を想像するよう促す。</p> <p>○ 単元テーマを設定し、共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">旅行代理店になったつもりでおすすめする国を紹介しよう。</div> <p>課題 単元の学習の見通しをもつことができるよう、課題を提示する。</p>
◇[自己調整] 相手意識の醸成のため、単元のゴールに向かって学習計画を立てる。	
2 追究	<p>世界の有名な建物や食べ物などについてのおおよその内容を理解しよう</p> <p>課題 映像を見て世界の有名な建物や食べ物についての短い話のおおよそを聞き取る。</p> <p>～is country. You can see/eat/buy/visit It's ～.</p> <p>○ ペアで会話の練習をする。 ○ グループでワードゲームをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おすすめの家や地域と、その理由についてたずねあう。</div> <p>課題 相手のことをよく知るために旅行代理店のCMについて短い話のおおよそを聞き取る。</p> <p>3 You can see/eat/buy/visit Do you want to ～? Why do you like～?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">インターネットや地図帳などをもとに、行ってみたい国の有名なものを調べてたずねあう。</div> <p>課題 ペアやグループでおすすめする国の有名なものを調べ、おすすめする理由を考える</p> <p>4 ～is country. You can see/eat/buy/visit It's ～.</p>

課題おすすめする国を紹介している場面の絵を見ながら、「どんな言葉を使っているのかな?」「英語で何て言えばいいと思う?」と話しながら場面と課題を共有し、子供たちの課題意識が高まるように支援を行います。

(図3 具体的な場面の提示)



図3 具体的な場面の提示

課題ペアやグループで、質問する役割と答える役割を決めることで、それぞれの立場が明確になり、自分の学習課題に対して見通しをもって取り組むことができるようになります。

(図4 ペアやグループでの会話練習の様子)



図4 ペアやグループでの会話練習の様子

時	学習活動 (○) 支援 (課題, 遊び)
5	<p>◇[自己調整] 話す相手にわかるように表現や伝え方を意識して友達とおすすめする国について紹介しようとしている。</p> <p>グループでおすすめする国の紹介を練習しよう。</p> <p>○これまで学習した語句・表現を使って、グループごとにおすすめの国の紹介を練習する。</p> <p>おすすめする国を言うときは Italy is a nice country. とするんだね。</p> <p>エジプトでは、ピラミッドが見所だよ。行ってみたいな。 You can see the Pyramid.</p>
6	<p>◇[自己調整] 教師や友達からのアドバイスを参考にしたり,自分の学びを振り返ったりしてこれからの学びを生かそうとしている。</p> <p>おすすめする国について相手にわかりやすく紹介できるようにしよう。</p> <p>○よりよい紹介になるように、友達とアドバイスしあい,グループごとにおすすめの国の紹介を練習する。</p> <p>イタリアでは、おいしいピザを食べることができるよ。 You can eat pizza. と言えばいいんだね。</p> <p>おすすめを言うときは、相手を見ながら伝えられるとよりいいね。</p> <p>おいしいという気持ちを伝えるために delicious とすると,より気持ちが伝わるね。</p>
7	<p>旅行代理店になったつもりで、おすすめする国を伝え合おう。</p> <p>○これまで習った語句や表現を使って、旅行代理店の役割とお客さんの役割に分かれておすすめする国について伝え合う。</p> <p>私は、インドのおすすめの食べ物と、見所を2つの文で伝えたいな。</p> <p>笑顔で明るく、その国のおすすめを伝えられるようにしたい。</p> <p>今日はおすすめの表現を3つの文で言えるようになったので、次は delicious, や beautiful などの表現を入れて伝えたい。</p> <p>今日は、クリアボイスで伝えたいというめあてを意識して伝えることができました。次はいろいろな人におすすめを伝えたいな。</p>
8	<p>世界遺産について考え、世界と日本について理解を深めよう</p> <p>世界や日本の世界遺産について考え、と日本の文化に対する理解を深める。</p>
9	

追究教師と児童で目標の共有化をするために、教師から、「今日はどんな表現を言えるようになりたい?」「今日は、おすすめの国の表現が増えたら相手にその国の良さが伝わるね。」などの発問を行い、本時の目標が明確になるよう支援します。
(図5 授業ごとに児童が目標を設定し、学習を自己評価していった振り返りカード)

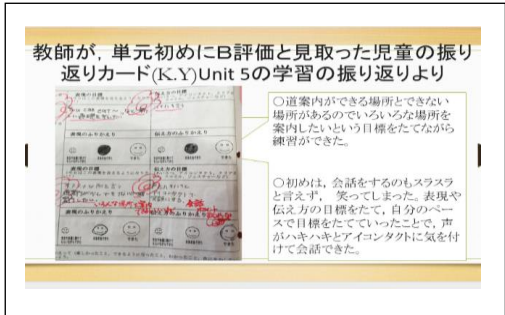


図5 授業ごとに児童が目標を設定し、学習を自己評価していった振り返りカード

追究子供たちは、自分の成果と課題にあわせて目標を設定することができるよう、振り返りカードを活用します。これまでの学習の様子や振り返りカードの言葉から、教師がB評価と見取った児童に対して、グループでの練習の際に支援を行います。児童は自分の学習の成果を感じることができ、より主体的に学習を進めることができます。(図6 グループごとに練習している時に教師が支援している様子)



図6 グループごとに練習している時に教師が支援している様子

パフ おすすめする国について伝えることができるよう、旅行代理店の役割とお客さんの役割に分かれて会話をする場面を設定します。

5, 本時案 (6 / 9)

本時の目標
 ・よりよい会話になるよう、めあてをたておすすめ国について役割分担をしながらやりとりを行う。

学習活動 (○) と子供の姿 教師の支援(課題, 追究, パフ)と評価◇ [自己調整]

○ warm up を行う。
 ○ 動画で友達の会話を見て、前回まで学習した質問や答え方を振り返る。

おすすめする国を言うときは Italy is a nice country. と言うんだね。

イタリアでは、コロッセオを見ることができるから、You can see the Colosseum. と言えいいんだね。

クリアボイスで話すとき相手には伝わりやすいね。

おすすめの国の観光地や食べ物を紹介するときは beautiful や delicious と思いを伝えると、よりおすすめする気持ちが伝わるね。

課題 これまでに学習した動画視聴を通して、自分たちの会話や友達の会話のよかった所を明確にし、これからの学習に活かすことができるようにする。

課題 これからの学習の具体的な指標が明確になるよう、必要に応じてそれぞれのめあての確認を促す

○ 本時の課題について見通しをもつ。

おすすめする国についてわかりやすく伝えることができるよう、他グループと交流しよう。

これまでに学習した語句・表現を使っておすすめする国について伝えたり聞いたりする。

課題 より主体的に課題に取り組めるよう、子供たちの言葉から課題を設定する。

◇ [自己調整] 話す相手にわかるように意識しておすすめする国について伝えようとしている。【主】 <発言・行動>

S1: Italy is a nice country. You can see the Colosseum. You can eat pizza. It's delicious. Thank you for listening.. See you. S2: See you.

イタリアはピザがおいしいことがわかったよ。

イタリアのコロッセオをおすすめすることが出来たよ。

S1 India is a nice country. You can see the Taj Mahal. It's very beautiful. You can eat curry and naan. It's delicious and spicy. You can eat Tandoori chicken. It's yummy. Thank you for listening. S2 : See you.

好きな動物を英語で聞くことができたよ。

聞きやすい声で笑顔で話したいな。

追究 必要感をもって会話をするができるよう、紹介をしたり聞いたりする役割分担を行い、会話できるようにする。

パフ 自分の学びのよさに気付くことができるように、会話をする中で、自分の会話や友だちの会話を振り返ったり、友だちの会話のよいところを考えたりしながら会話を行うことを促す。

◇ [自己調整] 自己の学びを振り返り、本時の学びをこれからの学びに生かそうとしている。<発言・行動・振り返りカード>

○ ふりかえりカードに記入し、交流する。

友だちにぼくのおすすめする国のよさを伝えることができてうれしかった。

今日の表現のめあてを3つの文で言えるようにしたいというめあてが達成できたので、次はもう少し delicious や beautiful などの表現を増やして言いたい。

〇〇さんが笑顔で明るく話していたので、とてもよかった。私も笑顔で話したい。

今日の伝え方のめあては、ハキハキとクリアボイスで伝えたいということ意識して伝えることができました。次は2組との交流でも意識して伝えたい。

◇話す相手にわかるように意識して、おすすめする国について伝えようとしている。【主】

追究 本時の学習を日常の会話に活かせるよう、これまで会話した中で、自分たちの会話や友達の会話のよかった所を明確にし、発表するよう促す。また、子供たちの振り返りを価値づけたり、学びを深めたりできるように促す。

